

緊急地震速報を活用した 予告なし避難訓練ガイド

山梨大学地域防災・マネジメント研究センター
山梨防災教育研究会

平成29年7月

はじめに

- このガイドは、小学校、中学校、高等学校において、実践的避難訓練である「緊急地震速報を活用した予告なし避難訓練」の普及を目的として制作しました。
- ガイド制作にあたっては、山梨県実践的防災教育推進事業（平成24年～平成28年）と山梨防災教育研究会（平成26年～平成28年）の成果を参考にしました。
- 本ガイドが学校現場で活用され、「緊急地震速報を活用した予告なし避難訓練」が、多くの学校で実施されるようになること、児童・生徒の危険を予測し、回避する能力が高まることを強く期待しています。

山梨防災教育研究会 座長
山梨大学 准教授

秦 康 範

緊急地震速報を活用した 予告なし避難訓練の基本的な流れ

①事前学習

児童・生徒

- 地震の揺れを理解する。
- 地震時の身の安全の確保する方法を理解する。
- 緊急地震速報のしくみを理解する。

教員

- 予告なし避難訓練の必要性を理解する。
- 訓練計画を立案する。
- 緊急地震速報と地震の揺れの音源を準備する。



②訓練実施

児童・生徒

- その場で危険を予測し、回避する行動をとる。
- 主体的に一次避難を行う。
- 必要な声かけは行っても良いし、必要な場合は走っても良い。

教員

- 清掃や休みの時間等、授業時間以外の時間に実施する。
- 児童・生徒の主体的な一次避難行動を促す。指示は必要最小限とする。
- 講評のポイントは、身を守る行動がとれたかどうか。
- 実際の大地震時の状況を想定して行う。
- 訓練を実施するための準備は特段行わない。訓練の記録は避難時の様子を動画で記録する。



緊急地震速報
来る前に知る



③振り返り

児童・生徒

- 適切な一次避難が行えたかどうか振り返りを行う。
- 状況に応じて、適切な行動は異なることを理解する。

教員

- 気づきを重視した指導を行う。
- 児童・生徒と学校安全管理上の課題を、それぞれ抽出する。
- PDCAサイクルを実践する。



①事前学習 児童・生徒

指導項目	指導内容・ポイント	教材・資料など
<p>地震の揺れを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今の科学では、地震が何月何日何時に起こるということは、事前にわからない。突然起こる。 • 大きな地震の揺れがどういうものか、映像等を使ってイメージを持たせる。強い加速度を伴い、固定していない物は、飛ぶ、落下する、転倒する、移動する、ことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本赤十字「まもるいのち ひろめるぼうさい」DVD • 過去の地震災害の記録映像
<p>地震時の身の安全の確保する方法を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 一番大事なことは、「身を守ること」。 • 状況に応じた適切な対処法を考えられるようにする。 • 「おはしも」の徹底では、身を守れない。べからずではなく、どうすべきかを教えないといけない。 • どういう危険が起こりえるかを考える上で、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」はヒントになる。しかし、揺れのイメージがあれば、この言葉を知らなくても、想像することはできる。むしろ、そういう力が大事。 • 校舎内でどういう危険が生じるか、どういう対応をしないといけないか、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本赤十字「まもるいのち ひろめるぼうさい」DVD・ワークシート・指導書完備 
<p>緊急地震速報のしくみを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • しくみと限界を理解する。 • 数秒～十数秒の猶予時間が得られる場合がある。大きな揺れが到達する前に、身を守る行動がとれる。 • アラームの音声を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本赤十字「まもるいのち ひろめるぼうさい」DVD

①事前学習 教員

項目	内容・ポイント	資料など
<p>予告なしの避難訓練の必要性を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地震予知はできないので、地震は抜き打ちで起こる。 従来の型どおりの訓練（机の下に隠れる、整列して、校庭に参集する）では、状況に応じて身を守る行動を取る応用力が養われない。 「おはしも」は、学校防災の基本原則ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 秦康範（山梨大学）：実践的な防災訓練 パターン化した避難訓練からの脱却、Youtube 山梨大学地域防災・マネジメント研究センター：山梨と災害 第12章 学校における実践的な防災訓練 一山梨県における取組一（秦康範）、山梨日日新聞社、2016
<p>訓練計画を立案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の内容は、訓練の目的によって異なる。目的を明確にすることが大事である。 課題が見つかる訓練が、良い訓練である。失敗しない訓練は、やる必要が無い。 予告なしで訓練を行うことを、児童・生徒に告知しても構わない。 応用編として、教員にも知らせない、停電を想定し放送設備を使わない、負傷したり行方がわからなくなる役の子どもを設定するなど、教員の対応を検証する内容を盛り込んで良い。 一次避難にフォーカスした、ショート訓練も有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> 予告なし避難訓練実施要領サンプル（別冊資料） 初動対応ワンペーパーマニュアル（山梨県教育委員会）
<p>緊急地震速報と地震の揺れの音源を準備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> インターネットから気象庁やNHKから音源をダウンロードすることができる。 訓練ではいつ地震がはじまって、揺れが収まるのかわからない。地震の揺れの音源を使うと、よりリアリティの高い訓練ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁 緊急地震速報を活用した訓練について NHK 緊急地震速報とは

②訓練実施

児童・生徒

指導項目	指導内容・ポイント
その場で危険予測し、回避する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none">・ 大事なことは自分の身は自分で守ること。・ 授業時間以外の場合は、机の下に隠れることが正しい行動とは限らない。・ その場でどういう危険が起こりえるか、どうすればその危険を回避し身を守ることができるかを、自分で判断し行動する必要がある。
主体的に一次避難を行う。	<ul style="list-style-type: none">・ 授業時間以外の場合は、近くに教員がいるとは限らない。・ 教員の指示に従うことが大事ではなく、自分自身で判断し、主体的に行動することが大事である。・ 緊急地震速報で得られる猶予時間は数秒～十数秒しかないので、迅速に判断し行動することが求められる。
必要な声かけは行っても良いし、必要な場合は走っても良い。	<ul style="list-style-type: none">・ 「おはしも」、「おかしも」の約束は、避難時の約束事であって、大きな揺れが来る前の一次避難で守るべき事柄ではない。・ アラームに気がつかない周囲への「地震！」といった必要な声かけは、むしろ行った方が良い。・ 体育館の中に居て走れば直ぐにグラウンドに出られる場合など、必要な場合は走っても良い。・ 一例として、海辺で地震に遭遇した場合には、津波の危険がある。その場合は、「おはしも」ではなく、むしろ積極的に声をかけあって、高台やビルに向かって走って逃げる必要がある。

②訓練実施 教員

項目	内容・ポイント
清掃や休みの時間等、授業時間以外の時間に実施。	<ul style="list-style-type: none">授業時間中での予告なし避難訓練は、近くに教員がいるため、従来型訓練と基本的に差が無い。児童・生徒が自分で判断しなければならない、清掃や休み時間等に予告なし避難訓練を行う。
児童・生徒の主体的な一次避難行動を促す。指示は最小限。	<ul style="list-style-type: none">児童・生徒が主体的に一次避難を行う事が大事である。教員からの指示待ちを排除するためにも、児童・生徒への指示は最小限とする。教員も訓練に参加し、児童・生徒と同様に一次避難を行う。教員自身がケガをしないことが大事であり、揺れの最中に指示を出すことは本来できない。大人が本気で取り組んでいる姿勢を、子ども達に示すことが大事である。
講評のポイントは、身を守る行動がとれたかどうか。	<ul style="list-style-type: none">児童・生徒が主体的に一次避難できたかどうか、適切な身を守る行動ができたかどうか、講評のポイントとなる。参集時間や私語の注意ではない。課題が見つかる訓練が、良い訓練である。
実際の大地震時の状況を想定して行う	<ul style="list-style-type: none">実際の大地震時に想定される状況を想定した訓練を行う。停電すると校内放送は使えない。季節、天候、液状化等により、グラウンドが使えない場合もある。土砂災害警戒区域など二次災害の危険がある場所では、その場にいることが危険な場合もある。
訓練を実施するための準備は特段行わない。訓練の記録は、避難時の様子を動画で記録する。	<ul style="list-style-type: none">避難訓練のために必要な資機材を事前に準備する等は、一切行わない。いつ地震が起きても良いように、普段と同じ状況下で訓練を行う。訓練状況を記録することは重要である。写真よりも動画で記録した方が、参加者の対応がよくわかる。訓練の反省会や、児童・生徒の振り返りの際にも活用できる。

③振り返り 児童・生徒

指導項目	指導内容・ポイント	教材・資料など
適切な一次避難が行えたかどうか振り返える。	<ul style="list-style-type: none">緊急地震速報のアラームがなったときに、「どこにいたのか」、「どのような危険があると考えたのか」、「どういう身を守る行動をとったのか」、「その行動は良かったのかどうか」「もっとこうすれば良かったと思うこと」等を振り返える。何人かに発表させて、良かった点、悪かった点等を子供たちに評価させる。友達の行動を知ることにより、どういう行動が良いのか、自分の行動はどうだったのか、気づきを得ることが大事である。	<ul style="list-style-type: none">振り返りシート（児童・生徒向け）
・状況に応じて、適切な行動は異なることを理解する。	<ul style="list-style-type: none">校舎内の場所によって、適切な一次避難の行動は異なることを理解する。状況に応じた臨機応変な対応が大事である。特定の正解となる行動があるわけではないことを理解する。近くに机があるとは限らない。いつ地震が起きても適切な行動がとれるように、普段からどういう対応をするのが良いか、考えておくことが大事である。	

③振り返り 教員

項目	内容・ポイント	資料など
気付きを重視した指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">• 教員が答えを知っていて、それを教えるのではなく、児童・生徒に適切な気付きが得られるように誘導する。• 児童・生徒自身が主体的に判断し、行動できるようにすることが大事である。	
学校安全管理上の課題を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none">• 児童・生徒と教員の振り返りシートの結果を集約し、学校安全管理上の課題を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none">• 振り返りシート（教員向け）
PDCAサイクルを回す。	<ul style="list-style-type: none">• 明らかになった課題をもとに、PDCAサイクルを実践する。	

有用な教材・資料

- 日本赤十字社：まもるいのち ひろめるぼうさい、2015
- 山梨県教育委員会：2章 防災教育指導案例・実践例、山梨県学校防災指針 防災教育指導編、p.12-14、2014
- 山梨県教育委員会：初動対応ワンペーパーマニュアル 2016
- 秦康範（山梨大学）：実践的な防災訓練 パターン化した避難訓練からの脱却、Youtube、2016
- 山梨大学地域防災・マネジメント研究センター：山梨と災害 第12章 学校における実践的な防災訓練—山梨県における取組—（秦康範）、山梨日日新聞社、2016

